

(1) 金剛地区再生指針に基づくソフト面の取組について(令和2年度)

1. 拠点づくり・情報発信プロジェクト
2. 総合まちづくり部会
3. 東西交流プロジェクト
4. 金剛マルシェプロジェクト
5. 寺池台小学校区防災訓練

1. 拠点づくり・情報発信プロジェクト

①拠点づくり

これまで、金剛地区のまちづくりに関する議論において、
「**地区における居場所がない**」という意見が多く挙げられてきた。



「金剛地区まちづくり会議」において、居場所づくりをテーマに活動する
「**拠点づくりプロジェクト**」が立ち上がり、常設の拠点づくりに向けた取組
を推進(2019年6月～)。

→会議の開催(場所・仕組み等を検討)、事例の勉強・視察など



法人名義での物件賃借契約や補助金等の活用ができるよう、
「拠点づくりプロジェクト」有志8人により「**一般社団法人わっく金剛**」
を立ち上げ(2020年2月)。



「**金剛地区における新たな魅力づくりに関する連携協定**」を
市と締結(2020年10月)。

→市では、拠点候補地である施設の借用に向けて、
施設所有者である「**UR都市機構**」との交渉等をサポート。

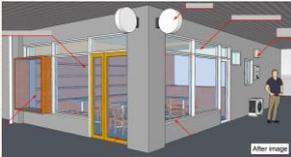


金剛地区の新たな拠点「**わっくCafé**」を開設(2021年2月27日)。

拠点づくりプロジェクト

金剛に常設拠点をつくる
参加型
プロジェクト！

金剛銀座街商店会に多世代、そして金剛内外の人たち誰もが集える常設拠点をづくり、その拠点から新たな発展や、可能性のある自由な空間を参加型プロジェクトで創り出します。あなたにできる形でプロジェクトに関わりませんか？



池田泉州銀行金剛支店さんのお隣です

その1 カフェまたはショップのオーナーとして参加！

自分の作ったパンを誰かに食べてもらいたい、こだわりの音楽をかけたい、週に1回くらいならCaféを開いてみたい...などなど。様々なオーナーたちが日替わりでいるCaféです。共通のドリンクメニュー以外は、オーナーのアイデアと工夫によって自由に展開できます。ハンドメイドが得意な人は、ボックスショップのオーナーに。あなたの得意をいかして、誰もが集える居場所・空間づくりをしませんか？



その2 活動の運営を資金面で応援！

だれでも、いつでも、気ままに立ち寄れるみんなの居場所づくりに、1口3,000円の寄付で運営を応援。寄付1口につきコーヒーチケットを1枚プレゼント。また、HP・わっくCaféにお名前を掲載させていただきます。

その3 ボランティアとして参加！

法人主催の企画のお手伝い、DIYやメンテナンスのお助けメンバーとして参加。

オーナー登録やボランティアなどのお問い合わせはこちら

わっくCafé

MAIL: wakucafe@gmail.com

住所: 大阪府富田林市寺池台1丁目9
(金剛銀座商店街内)



MAIL

HP

LINE 公式アカウント
(詳細可)



いつでも、だれでも、気ままに立ち寄れる。
おしゃべりを楽しんだり、ほっと一息お茶の時間。
多様な日替わりカフェオーナーの自慢のメニューやイベントも
見るのも自由！やるのも自由！

ちょっとオシャレな わっくCafé

わっくCaféとは・・・
日替わりのカフェオーナーがいることで、多種多様なカフェになり、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の居場所をつくれます。基本メニューがあるので、誰でも気軽にカフェとして利用できます。

●日替わりカフェオーナー

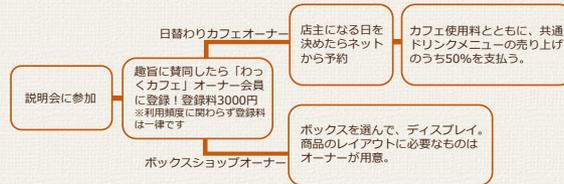
1枠(8時~14時or15時~21時)を3,000円で利用できます。
共通のドリンクメニュー以外は、店主のアイデアと工夫によって自由に展開できます。月に1回ペースから週に1回ペースでも、また仕事の休みの時に連続日間だけオーナーをしてみるなど・・・生活スタイルにあわせてカフェオーナー活動をしてもらえます。カフェ以外にも、作品展の展示会などにも利用できます。

●ボックスショップオーナー

ご自身のショップとして、自由に作品の入れ替えやディスプレイができます。
1箱1か月1,000円で利用できます。

3ヶ月に1回オーナー交流会を開催しますので、他のオーナーと交流を深めてもらえます。

日替わりカフェオーナーやボックスショップのオーナーになってみたい！という方は



金剛銀座街商店街の空きスペース（池田泉州銀行 南側）を活用して、多世代、また金剛地区内外の人たち誰もが集える常設拠点をづくり、その拠点から新たな発展や可能性のある自由な空間を作り出す参加型プロジェクト。

わっくCaféの仕組み コンセプト→いつでも誰でも集える常設の拠点

日替わりオーナーカフェ等の仕組みを採用

- ・オーナー希望者は説明会に参加し、趣旨に賛同した人がオーナーに登録。
- ・登録料は、利用頻度に関わらず一律3,000円。
- ・登録後は、①日替わりカフェオーナー、②ボックスショップオーナーになることができる。

①日替わりカフェオーナー

一枠(8～14時or15～21時)を3,000円で利用できる。
 共通のドリンクメニュー以外は、店主のアイデアと工夫によって自由に展開可。
 その他、作品の展示や販売等にも利用できる。
 ※共通のドリンクメニューの売上金の一部を、わっく金剛に支払い。

②ボックスショップオーナー

1ボックスを一ヶ月1,000円で利用できる。
 店主のショップとして、ハンドメイド作品等の販売ができ、自由なディスプレイや
 入れ替えも可能。

オーナーは、いつでも予約して利用可。

予約がない日のうち「火～土曜日の10～14時」はコミュニティカフェとして、わっくメンバーが運営。

→登録料、利用料、売上金を、
 家賃、水光熱費、材料費等のランニングコストに充当。 →継続的な運営をめざす。

わっく Caféの進捗は・・・？



■初日の状況

2021年2月27日(土)に**オープン!**

①日替わりカフェ

(初日)

午前→わっくメンバーにより、子ども食堂を開催。

夜 →マルシェに出店する農家さんが第1号のオーナーとなり、レストランをオープン。

※午前はカレー71食を完売。 夜は予約で満席に。

(その後は・・・?)

3月4月のオーナー予約はほぼ埋まっている状況。

②ボックスショップ

- ・当初から多数の申し込みがあり、初日から半分以上が埋まる。
- ・現在、ボックスは全て埋まっている。

新型コロナウイルス感染症対策として、「換気」「入口&店内に消毒液を設置」「入口に手洗い場を配置」している。

わっくCaféについて

拠点づくりプロジェクト会議開催の様子



拠点づくりPJは、わっくCaféの開設により、
常設の拠点を開設するという目的を達成したため、解散。

※わっくCaféの進捗については、まちづくり会議と連携した、地区活性化の取組として、引き続き、運営(わっく金剛)の皆さんに会議に参加していただき、報告・共有等をしていただきます。

1. 拠点づくり・情報発信プロジェクト

②情報発信

情報発信について

ニュースレター第7号の発行



■ニュースレターの作成
 ・プロジェクト会議にて、掲載内容やレイアウトを検討(R3.1.13)。
 ※出席者:4人

■掲載内容
 ・金剛地区の新たな拠点
 (わっくCafé&魅力向上拠点)
 ・金剛マルシェ開催(令和3年度)
 ・ペットボトルツリー飾り付け など

■発行部数
 ・6,000部
 ※印刷費用は、委託金より支出。

■配布方法
 ・3,500部
 →まち会議ボランティアによる戸別ポスティング(7人)
 ・2,500部
 →周辺公共・民間施設に設置
 →自治会等の回覧・掲示

「ひろとん(※)」にて、「まちづくり会議」のPRポスターを展示(ニュースレターを抜粋し作成)。

※市民公益活動団体が、各々の活動内容についてPRするイベント。令和2年度は、市内の各施設ごとに期間を定め、各団体のPRポスターを展示(令和3年2月21日～4月28日)。

情報発信について

SNS等を活用した新たな取り組みについて



- ①各部会・プロジェクトにおける取組が活発化する中で、本プロジェクトとして、まちづくり会議の包括的な情報発信を担うことが難しい。
- ②継続的にニュースレターに掲載する情報収集をするための人材確保が難しい。



新しい情報発信のかたちを検討

まちづくり会議参加者に関わらず、
「だれもが気軽に情報発信できる場づくり」

※SNSの活用による、だれもが写真&記事を投稿可能な掲示板のようなイメージ。

取組内容の変更に伴い、
改めてプロジェクトメンバーを募集中

2. 総合まちづくり部会

(1) 寺池公園 “水辺の眺められる空間づくり” 活動について

(2) 金剛中央公園・青少年スポーツホールの再編について

※次頁以降は、中央公園や寺池公園の利活用促進等を
住民視点で検討するための資料として
総合まちづくり部会(地区住民等)が任意で作成したものです。

(1) 寺池公園 “水辺の眺められる空間づくり” 活動について

(2) 金剛中央公園・青少年スポーツホールの再編について

金剛地区再生の基本的な考え方

※総合まちづくり部会における
任意検討資料

■ 整備目標

○金剛地区の魅力・利便性を高め、若い世代が住み続け、移り住みたく思え、かつ、老若男女・社会的弱者全ての方が、安心して豊かに暮らせる都市へと再生していく。このため、下記に取り組む。

- ①コミュニティの活性化 ②若者居住の促進 ③都市魅力の創出 ④シビックプライドの醸成



■ 推進方策

- 財産の最適利用、段階的な空間・建物のリノベーション
- 地域住民、民間事業者等の連携による都市機能の充実

■ 段階的推進

- Step-1: ①②③をリーディングプロジェクトとして、公共空間・施設の再編・活用に係る社会実験等
- Step-2: ④の再編を図り、マルシェ等の拡大展開等により、スタートアップ店舗等の出店機会を創出。
- Step-3: 金剛地区の魅力向上、市場性向上を図りながら、⑤の実現性を高めていく。

① 寺池公園 ～ 地域主導によるリノベーション ～

視点: 地域主導、モチベーションの向上、継続性の確保

- 小さなことからでも、目に見えて前に進め、参加の輪を拡げていく
- 水辺が眺められる空間の整備、桜の植替え等

② 金剛中央公園 ～ 施設とグラウンドの一体的活用 ～

視点: ① 子供、高齢者、子育て世帯等、誰もが多様に利用

- ② 様々な活動、スポーツ・健康の拠点
- ③ 金剛地区の魅力的なシンボル空間



1. 地域としての活動方針の確認 1/27 市長面談

寺池台一丁目・五丁目自治会、総合まちづくり部会の方針提示

1. 公園から水辺を臨む眺望の確保(除草、除根、清掃)
2. 定期的(7月、11月)な維持管理(除草、清掃)
3. 花の植え込み(手間のかからないアジサイ等の多年草)
4. 安全の確保:草刈り、除根、花植えの際に限定して柵内に入らせてもらう

- ①早急に、市(農とみどり推進課)と地元で協議の場をもち、取組みの内容についての具体の検討に入っていく。
- ②出来る事からスタートし、目に見える形で示していく。

2. 富田林市との協議・調整 2/3 市(農とみどり推進課協議)

- ①関係機関協議:大阪狭山市、寺ヶ池水利組合、半田財産区
- ②取組み内容:水辺が臨める空間づくり等からスタート、徐々に拡大
- ③活動にあたり配慮すべき事項:継続性の確保、活動内容の書面確認
- ④行政支援:剪定枝等の処分、ボランティア活動保険加入

金剛1丁目参画依頼等

- ①当面の活動内容の共有
- ②推進体制の構築(寺池台一丁目・五丁目自治会、総合まちづくり部会)
- ③金剛一丁目への説明・参画依頼

3. 大阪狭山市・水利組合との協議・調整

- ④大阪狭山市(農政商工G)との協議(市から事前連絡)
・活動内容、実施手法の確認(公園環境美化活動、アドプト等)
- ⑤半田財産区協議
・活動内容、具体化方策に関わる協議
- ⑥寺ヶ池水利組合協議
・活動内容、具体化方策に関わる協議

4. 実施体制の整備 ~ 実践

事業計画の策定、実践

- ①協議内容に基づく「事業計画(実施体制、資金計画、工程)」の策定
- ②地域内での確認・合意形成
- ③実践

寺池公園を軸とした地域活動の推進体制

※総合まちづくり部会における
任意検討資料

漸進的にプランニングし、拡大していく
外への効果を意識し、エリア・体制を見直していく

(仮称) 寺池公園再生プロジェクトチーム

1. 構成：総合まちづくり部会員
寺池台一丁会担当委員
寺池台五丁目自治会担当委員
金剛一丁目自治会担当委員 等
2. 業務：プロジェクトの企画、プロデュース、
プロジェクト参加者の呼び込み
プロジェクトの実施・運営
3. 当面の取組事項
 - 水辺が眺められる空間づくり
(寺池台一丁目・五丁目 西側公園)
 - 里山の防犯・安全性の確保(伐木など)
 - 花の植え込み(アジサイ等の多年草)
 - 桜の植樹
 - 定期的な維持管理(除草、美化清掃) 等



取組の拡大

○地域内公園を結ぶ緑のネットワーク形成
○金剛地区ウォーキングマップの策定

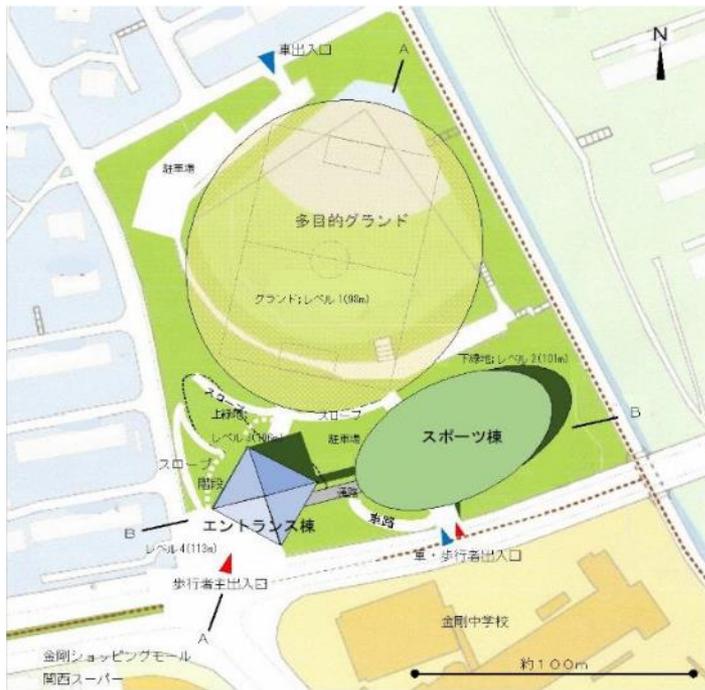
寺池台一丁会

寺池台五丁目自治会

金剛一丁目自治会

行政支援
(富田林市・大阪狭山市)

寺ヶ池水利組合等との
協議・調整

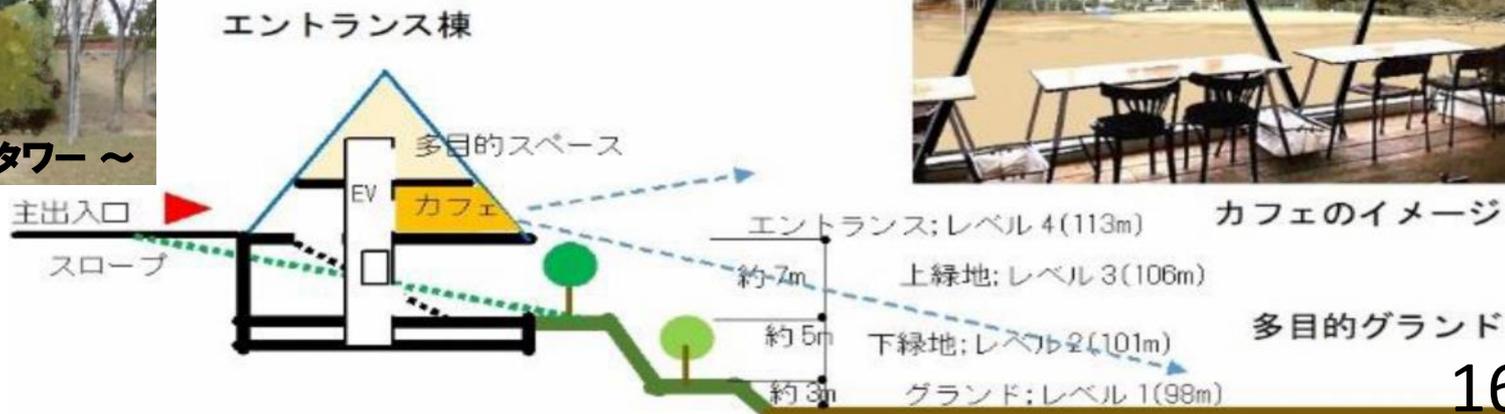


エントランス棟

- 約12mある段差を、エントランス棟内のエレベーター・階段で解消
- 象徴的なデザインを導入⇒公園の目印、**金剛地区のシンボル**とする。
- 1階は公園を見下ろす**カフェ**、他階は**多様な活動スペース**(子育て支援・屋内子ども遊戯、自習室、高齢者の社会参加支援施設、コワーキングスペース、まちづくり活動等の多目的交流スペース)

スポーツ棟

- エントランス棟とは通路でつながり、南側歩道からも直接ブリッジで接続(駐車場への導線)
- 多くの方、多世代の方が利用できる健康・スポーツ拠点施設**(バドミントン、バレー、ボルタリング、ヨガ、フィットネス等)



【中央グラウンド・公園】

子どもから高齢者まで誰もの
気軽に行きたい、憩いたい、参加したい、成長したい、
眺めているだけでもいい、連れて行ってほしいを実現する。
そして、“誰もが健康で快適に暮らせるまち”を実現していく。



どのようにして再生を図るのか

- 老若男女・社会的弱者 **誰もが**、安心して豊かに暮らせる都市へと再生していく
- このためには、流出が続く若者世代が住み続け、移り住みたく思える“都市としての魅力”を備えることが不可欠

➡ “スポーツ・健康”をキー戦略として 地域住民等の参画・連携の活性化、外部人材・資金の呼び込みを図る

- ①『スポーツ・健康』を通じて、地域の既存活動等の活性化、新たなネットワークの形成、活動の充実を図る
- ②『スポーツ・健康』を基軸に、人・事業者・チームを集め、対話を通じ地域貢献やまちづくりの要素を組み込む
- ③誰もが、日々スポーツ・健康アクティビティ、ランニング、ジョギング、お散歩している風景を地域の日常としていく
- ④子供たちがプロスポーツに触れる機会を増やし、感動を与え、再編の力としていく

(仮称)金剛地区創生プラットフォーム

1. 構成: プロジェクトを実施する地域住民・NPO、財団、民間事業者、大学、行政等
2. 業務: プロジェクトの企画、包括的プロデュース、民間事業者等の呼び込み、マッチング、プロジェクトの実施・運営・発信等
3. 取組みテーマ
 - 都市空間・施設の質的向上、管理・運営
 - スポーツ・健康増進等プログラムの提供
 - 子育て支援、子供・高齢者等の居場所づくり
 - 移動・配達支援
 - 多様な働き方(仕事のマッチングサービス) 等

スポーツ・健康を軸として
仲間を募る

3. 東西交流プロジェクト

東西交流プロジェクト

■目的

本市は、西側にニュータウン、東側に旧市街地が位置しており、それぞれに特色のあるまち並みが形成されているものの、その交流は活発でない。

本プロジェクトでは、さまざまな取組を企画・実行することで、**西から東、東から西への人の動きを創出し**、東西交流の促進をめざす。



・第1回は、金剛マルシェ出店者であり、富田林寺内町でボランティアガイドをされている方との出会いから、「**富田林寺内町の街並み見学**」を企画。

・当日は、その方にガイドをしていただきながら、街並み見学～お店周り～昼食などを実施（11/28）。

・参加者；5名（まちづくり会議参加者中心）

金剛発！東方探訪！

見て、聞いて、学ぶ

～第1回 富田林寺内町のまち並み見学～

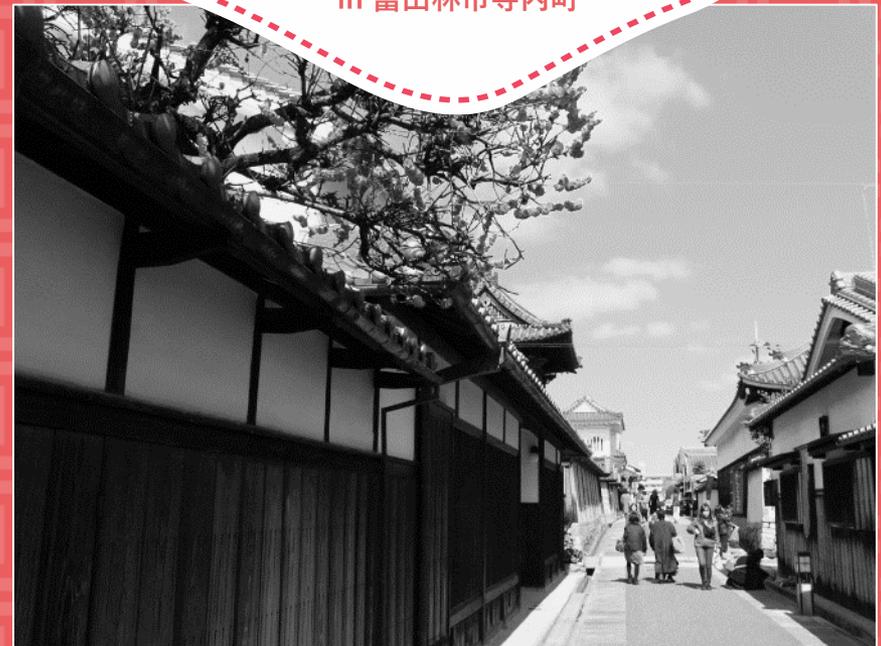
2020.11.28(土)

in 富田林市寺内町



最寄駅
近畿日本鉄道長野線「富田林駅」

駐車場
自家用車で来られる方については、市役所の駐車場、又は、近隣のコインパーキングをご利用ください。
※いずれも有料です。駐車台数には限りがありますので、ご注意ください。



連絡事項

1 開催日時

11月28日(土)11時～13時

2 集合時間・場所

10時に、金剛連絡所前レインボーバス・バス停にお集まりください。現地まではレインボーバスで向かいます(交通費実費)
※現地集合される方は、じないまち交流館(富田林町9-29)に、11時にお越しください。

※お車でお越しの方は、市役所駐車場、又は、近隣コインパーキングをご利用ください。(詳細は裏面をご覧ください。)

3 持ち物

筆記用具、雨具(雨天の場合)

4 参加費

1,200円(ランチ代含む。)※交通費は各自負担。

5 その他

- ・雨天決行。
- ・当日はマスクの着用をお願いします。
- ・当日体調がすぐれない方、37.5℃以上の発熱が認められる方の参加はご遠慮ください。
- ・参加は、金剛地区まちづくり会議メンバーまたはそのお知り合いの方に限ります。



SCHEDULE

寺内町散策

ACCESS

SPOT

じないまち交流館を出発 11:15

徒歩

・奥谷家～東奥谷家を散策
・一里山で4つの時代の家を紹介

11:20

徒歩

越井家～日本の道100選の城の門筋に戻り～南奥谷家～葛原家～田守家

11:35

徒歩

興正寺別院～橋本家～木口家～仲村家～旧杉山家住宅

11:50

徒歩

12:15

茶房 和(なごみ)で食事会

13:00

現地解散



興正寺別院



旧杉山家住宅



茶房 和で食事会



東西交流プロジェクト(当日の様子)



じないまち交流館から出発



奥谷家～東奥谷家を散策



越井家～日本の道100選の城の門筋に戻り
～南奥谷家～葛原家～田守家



興正寺別院

東西交流プロジェクト(当日の様子)



茶房 和(なごみ)で食事会

東西交流プロジェクト(参加者の感想等)

2/6全体会において、参加者から感想等を報告・共有した。

- (1) 金剛地区では、富田林寺内町や名産品の情報が少ない。
「金剛地区魅力向上拠点」等を活用し、PRを積極的に行うべきである。
- (2) 金剛地区から富田林寺内町への移動が不便であった。
交通アクセスの向上や、イベント時のバスを増便すべきである。
- (3) ウォーキングコースの整備等、歩きたくなる環境づくりが必要である。
(富田林寺内町や金剛地区を起点としたコース設定など)

など

富田林寺内町の存在を知らなかったり、訪れたことがない人もいたが、市の魅力について知る一つの機会とすることができた。

今後は・・・

- ・東部農村地域における**農業体験**
- ・富田林寺内町における**まちづくりの事例学習** など、さらなる展望を検討。

4. 金剛マルシェプロジェクト

金剛マルシェプロジェクト

6月の再開以降、継続的に開催。



■ 場所の借用

UR都市機構から金剛銀座街商店街の一部のスペースを無償で借り受け、月1回マルシェを開催。

→施設使用にあたり、年1回、本プロジェクトより、申請書を提出。

■ 運営の仕組み

まちづくり会議では、キャラメルポップコーンを販売(都度保健所に届出)や人形すくい等を出店。

売上金は、周知チラシの印刷・配布費や、まちづくり会議の運営費などに充当。

■ 令和2年度 実績(R2年6月～R3年2月)

□売上 35,000円

□利益 10,000円

→剰余金を、各種取組に充当。

一部、銀座街や福祉委員会の備品を無償で借用。

※パラソルカフェ用のテーブル・椅子、のぼりポールなど。

金剛マルシェプロジェクト



金剛マルシェ 地場産やさい市
富田林の農家さんが金剛にやってくる

午後2時～午後4時
野菜販売は午後3時から

11月22日(日)は金剛ハルと同時開催のため
11時から16時になります!

開催場所
金剛銀座街商店街前
富田林市寺池台1-9

開催日
12月19日(土)
1月23日(土)
2月27日(土)
3月27日(土)




金剛地区まちづくり会議事務局
(富田林市金剛地区再生室まで)
0721-25-1000

富田林市の農業を創造する会

 のざき農園 野崎 隆	 乾農園 乾 裕佳	 川角農園 川角 勇司	 栗師寺農園 栗師寺 一之介
 ナカシジマファーム 中筋 秀樹	 蔵間坂本屋 坂本 耕一	 めがねファーム 岩佐 晃吾	 磯土農園 布留 豊晴 清水 裕之

野菜販売だけじゃない！ポップコーン、パスタソルカフェ、かき氷、雑貨販売。またちびっこ祭り、フリマなどのイベントも開催予定。開催日程は最新情報でご確認ください。フラックと立ち寄って買い物したり、おしゃべりしたりしながら楽しいひと時をすごす金剛マルシェ。ここでしか買えない新鮮野菜をぜひ買い求め下さい。

イベントを盛り上げてくださる出店者さんを募集しています。一緒にたのみましょう！興味のある方は一度お問合せ下さい。
金剛地区まちづくり会議 出店担当市川まで (0721-29-8664)

新型コロナウイルス感染症大流行について
・必ずマスクを適切にしてください。
・体調がすぐれない(熱や風邪の症状がある)方のご来場はお控えください。
・ソーシャルディスタンスを保ちましょう。
・密を避けるため、入場を制限させていただく場合があります。
・予告なく中止する場合があります。
・感染者発生に備え、来場者名簿の記入にご協力ください。



最新情報やお問い合わせ
先请联系

- (1) 来年度も開催することで、**農創会と調整済**。
- (2) **新規就農の方の野菜販売の場**に。
- (3) 一定数の**マルシェファン**も付いている。
※天候に左右される面もあるが、
各回50～100人程度の来場者あり。
- (4) 11月～3月のチラシを発行(6,000部)。
ニュースレターと併せて、**まちづくり会議ボランティア**によりポスティング。

出店者を引き続き募集中！！(現在、出店料は無料)

→実験的に出店・販売できる場として、趣味の手作り品などの出店も歓迎。

ペットボトルツリーの飾り付け

- ・ペットボトルツリーは、地域の幼稚園や保育園の児童が作成。
- ・「まちづくり会議」と「金剛にぎわい創出実行委員会」の共同により、飾り付け(11月)&撤去(3月)を実施。
- ・点灯期間; 11月22日～1月17日

金剛バルと同時開催

- ・コロナの影響により、親子ふれあい祭りは中止となったが、11月マルシェをバルと同時開催(会場別)することで、にぎわいを創出。



(ペットボトルツリーの飾り付けと点灯の様子)

(11月 マルシェの様子)

マルシェファンも定着する中、運営には課題が・・・

金剛マルシェは、まちづくり会議（地区住民等）のニーズを基に、2018年度より取組がスタートした。

初動期の支援として、市も参加しながら、マルシェ開催に必要な支援を行ってきたが・・・

まちづくり会議の自主的・自立的活動には至っていない

行政の役割＝あくまでも、きっかけや土台作りなど
活動初動期の支援

地域のイベントとして
地区住民・団体等が主体となって
運営（マルシェ開催に必要な作業）を担っていく必要がある

■マルシェの課題

・マルシェ担い手の不足

- ・マルシェファンが定着する一方で、マルシェ担い手の不足が課題となっている。
- ・2/6全体会の場において、マルシェ開催のために必要な作業を示した上で、**マルシェ担い手を募集&マルシェ開催前に集合を呼び掛けた。**

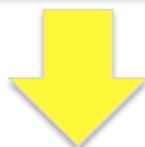
マルシェ開催のために必要な作業

(当日の仕事)

- ・会場設営(机・椅子の搬入、のぼり・張り紙設置)
- ・ポップコーンの販売(資金を活動費に充当)
- ・お客さんの会場誘導

(そのほかにも・・・)

- ・農家さんとの出店調整
- ・集客PR(チラシ作成など)
- ・出店者への呼びかけ
- ・開催までの全体コーディネート



全体会参加者から、担い手は出てこなかったが・・・

現在、中心となって担っているまちづくり会議参加者と共に
出店者を巻き込んだ今後の新しい展開を模索。

・その他

- ・農家の人的負担を軽減するための取組を検討することなどが必要。
(**当番制の導入や、ICTやeコマースを活用することなどが考えられる。**)

5. 寺池台小学校区防災訓練

寺池台小学校区防災訓練について

地域の防災意識の向上と、防災に係るゆるやかなつながりづくりを目的として、地域防災訓練補助金を活用した寺池台小学校区防災訓練が毎年開催されており、まちづくり会議も寺池台小学校区防災訓練実施連絡会の一員として参加・協力している。

■主 催・・・寺池台小学校区防災訓練実施連絡会（令和2年発足）

⇒自治会・町会・自主防災組織、関係団体、校区住民有志等、〔25人〕により構成。

⇒内部委員会として、連絡会の中心メンバーによる「準備委員会」を設置しており、訓練実施の詳細検討等の役割を担っている。

今年度の訓練について

寺池台小学校区防災訓練実施連絡会

8月以降、計3回の会議を開催し、
コロナ禍を踏まえた今年度の防災訓練実施のあり方やコンセプト等を検討。
また、組織体制の確立に向けて、役員（会長・事務局）を選出。

寺池台小学校区防災訓練運営準備委員会

計2回開催し、コロナ禍を踏まえた訓練の概要、当日スケジュール、
訓練参加者の役割分担等について検討し、連絡会に提案。

- ・準備委員会の検討を元に、避難所開設訓練（案）を作成。
- ・本年度の訓練実施（新型コロナウイルス感染症を踏まえた小規模開催）を決定。

寺池台小学校区防災訓練実施連絡会(令和3年2月3日)

緊急事態宣言が1月7日に発出され、さらに宣言期間が延長されたことを受けて、再度訓練の実施について検討。

→今年度の訓練は中止することとした。



準備会・連絡会を経て、避難所開設訓練(案)が完成したことが今年度の成果。

今年度の検討経過や、避難所開設訓練(案)をマニュアルとすることで、来年度メンバーが変更された場合でも、スムーズに訓練を計画・実施することが可能。

来年度の取組について

- ・現在、各自治会・町会・自主防災組織等へ、来年度の連絡会委員の選出を依頼中。
- ・来年度の役員(会長・事務局)は、今年度の体制にて引き続き担って頂くこととなった。
- ・今年度委員に対して、来年度も引き続きコアメンバーとして参加頂くように、声掛けを行っている。